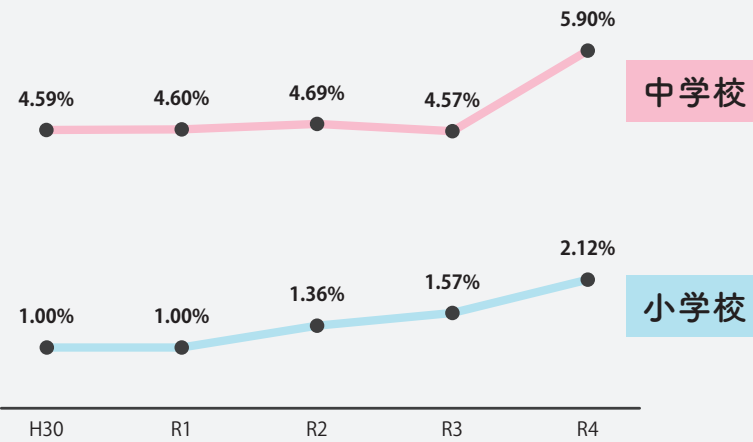


不登校の現状について



加賀市でも全国や石川県と同様、不登校の子ども数は増加しており令和4年度は、小学校で2.1%(59人)、中学校で5.9%(93人)でした。実際には、学校には行けても教室に入れない子どもなど、数字に表れない状況もあります。子どもを無理に学校に戻すのではなく、子どもの「社会的自立」を第一に考え、多様な学びの場や社会とつながることができる居場所を提供していくという方向へ社会全体が変化しています。

FAQ

Q 登校はしたいけれど、教室に入ることには抵抗があります。教室ではないところに登校できますか？

A 教室の他にスクールサポートルーム(SSR)があります(一部小規模校を除く)。担任の先生や教育相談の先生にご相談ください。

Q 最近、子どもが学校へ行きたがらなくなりました。どうしたらいいですか？

A まずは、担任の先生や教育相談の先生にご相談ください。先生に相談しづらい場合は、教育総合支援センターやチャット相談「ブリッジ」でもご相談いただけます。

Q チャット相談「ブリッジ」に相談したら、相談している内容が学校にも伝わってしまいますか？

A 相談内容は学校とは共有しません。ただし、子どもの安全に関わる事案については、学校や関係機関と共有する場合があります。

Q 学校に行けておらず、今後の学習の遅れや進路が心配です。オンラインで授業に参加は可能ですか？

A 担任の先生や教育相談の先生に相談していただければ、授業によってはオンラインで家と教室をつなぐこともできます(画面オフでもOK)。

Q 「Being(旧のぞみ教室)」が遠く、送迎ができません。他にも学校に行けない子どもが行ける場所がありますか？

A 市内に6つある児童センターでは、子どもたちの居場所としても受け入れます。今後は民間施設等とも連携し、子どもの居場所を増やしていく予定です。

Q 学校と学校外の居場所は、行ったりきたりできるんですか？

A 可能です。お子さんの状況やご希望に合わせて柔軟に行き来可能です。

BE THE PLAYER

自分で考え
動く 生み出す
そして社会を変える

加賀市
不登校支援プラン

加賀市 不登校支援 プラン

加賀市は多様な学び場や居場所を作っていきます

どこからでも どこにいても BE THE PLAYER

近年、学校に気持ちが向かなくなる子どもたちが増えています。要因はさまざまですが、誰にでも起こりうることです。

『加賀市学校教育ビジョン』が目指すのは「そろえる」教育から「伸ばす」教育。

子どもが学校に合わせるのではなく、学校が変わっていく。そして、多様な学び場や居場所からも、子どもたちを社会と未来につなげていきます。

自分で考え
動く 生み出す
そして社会を変える

BE THE PLAYER

校内 サポート

- 画一的な一斉一律の授業から「子どもが主役」の授業へ
- 学校の中の居場所の多様化
- いつでも相談できる多様な環境

校外 サポート

- 教育総合支援センターが中心となる学校や地域、関係機関との連携
- 教育総合支援センターによる、個人のアセスメント、きめ細かい支援方策のケース検討の実施
- 地域で受け入れる場の多様化

学校内の相談先・居場所

担任の先生・教育相談の先生など

学校に行きづらくなった、行き渋るようになった場合は、まずは担任または教育相談の先生などにお気軽にご相談ください。

スクールサポートルーム（校内支援センター：SSR）

様々な理由で教室に入るのが難しい子どもたちが安心して通える学校内のスペースです。学級の時間割とは異なり、自分のペースで学習を進められる点が特徴です。令和6年度より市内15校に設置予定です。

スクールカウンセラー（SC）

子どもたちが日々抱える気持ちや悩みを聞く専門家です。言いづらいことや小さなことでも安心して相談する事ができます。担任の先生や教育相談の先生を通して、予約をして相談します。

学校内外をつなぐ 相談先

教育総合 支援センター

0761-73-0118
(加賀市三木町=98番地1)

New

学校に行きづらくなった子どもたちを支援する専門機関であり、学校内外のサービスを橋渡ししてくれる機関です。スクールソーシャルワーカーも在籍していますので、どこに頼ったらいいかわからない場合にもご相談ください。

チャットで相談 できるサービス

チャット相談ブリッジ

子どもも保護者も匿名で相談ができるサービスです。子どもは1人1台端末、保護者は自分のスマホなどから利用可能です。ちょっとした悩みや学校に知られたくない内容、どこに相談したらいいかわからない時などもお気軽にご相談ください。NPO 法人カタリバ(市外)の専門相談員が対応します。

学校外の居場所

New

児童センター（市内6カ所）

子どもたちの遊び場や図書室、学習室などがあります。様々な理由で学校に行きづらい場合に、子どもたちの居場所として利用する事ができます。

New

「Being」(教育総合支援センター内：旧のぞみ教室)

教育総合支援センター内の学校に通うことが難しい子どもたち向けの場所です。個々の特徴に応じたペースで活動や学習ができます。



詳しくは
こちら



児童センター
についてはこちら